

1. 施肥時期

秋肥（元肥）は、収穫後の地温の高い時期に、翌年の初期生育に使う養分を蓄積（貯蔵）することを目的に行う。翌春に順調な初期生育（発芽・展葉）を促し、健全な花を咲かせるために下記の時期を目安として施肥を行う。（品目・品種により施肥時期は異なる）また、時期が遅くなると肥料成分が雪等で流亡することが多いため、早めに施用を行い根にしっかり吸着させることが重要である。

🌱 りんご・ナシ類・柿他

● 施肥時期・体系

① 元肥（収穫終了後～11月下旬）⇒ 追肥 5月下旬⇒ 苦土系葉面散布（生育期）

② 元肥（翌春・3月中下旬）⇒ 苦土系葉面散布（生育期）

- 品種により収穫時期に差があるので、早生・中生種から順に施肥していくと効率的。収穫終了が遅い品目・品種は収穫直後に実施するか、翌春（3月中下旬）に実施する。
- 降雪が早い年は翌春（3月中下旬頃）に実施する。
- 有機物（発酵ケイフン・種粕等）を投入する場合は、肥効に時間を要するため、秋（9月～10/10頃まで）の早い時期に実施すると効果的である
- 礼肥：着果過多により樹勢が衰弱している場合は収穫終了後できるだけ早めに実施する。（天然ボカシ・発酵ケイフン等）

🌱 もも・プラム・サクランボ

● 施肥時期・体系

① 礼肥（収穫終了後）⇒ 元肥（9月～10/10頃まで）⇒ 追肥 5月下旬 ⇒ 苦土系葉面散布（生育期）

② 元肥（10/10頃まで）⇒ 追肥 5月下旬 ⇒ 苦土系葉面散布（生育期）

- 礼肥：収穫終了後（着果過多により樹勢が衰弱している場合は早めに実施する。天然ボカシ・発酵ケイフン等）
- 品種により収穫時期に差があるので、早生種（白鳳・あかつき・大石早生等）から順に施肥していくと効率的。また、極晩生種（秋姫・白根白桃・ゴールデン P）は収穫終了後速やかに実施する。

2. 追肥について

養分転換期に当たる結実確定後（5月中下旬頃）から実施する。結実量、肥大程度、葉色の具合等をよく確認して実施する。ただし、降水量が少なく、土壤乾燥が著しい場合は、肥料成分の分解が進まないため、連続した雨が降る前の日をねらって実施すると効果的である。（詳細は年果樹施肥基準参照）

3. 葉面散布について

葉面散布は、土壤施肥と比べると効果の発現が早い。目的に応じた各種資材があり、生育初期から収穫直前まで使用できる。目的や補給したい成分等に併せて選択使用する。苦土・マンガン欠乏症状は早い年で4月下旬頃から発生する。症状がひどい場合は早めの散布を行う。また、収穫1カ月前位からりんご・もも・サクランボ等に使える着色向上資材も各種あるので内容をよく確認し使用する。（詳細は果樹施肥基準参照）

4. 土壤分析の活用及び採土時期について

現状の土壤状態を詳細に分析することで園地毎に合致した施肥体系を構築できる。ここ15年間は、苦土欠乏を引き起こす主因となるカリ過剰や微量元素不足（苦土・マンガン・ほう素等）が全域で多い傾向。ニュー果樹っこ等主体となる資材にも微量元素成分を含んでいるが、分析の結果明らかに不足している場合は、専用資材の投入が必要になってくる。よって、土壤分析を活用し、元肥に間に合わせるため下記の時期を参考に採土し分析を進める。尚、土壤の提出から分析結果が出るまでに約2週間を要します。

土壤採取時期目安

- りんご・ナシ類：9～10月上旬頃
- もも・プラム：7～9月
- サクランボ：6～7月

